

# <<取組事例簡易紹介シート>>

第5回 健康寿命をのぼそう！アワード <生活習慣病予防分野>

企業・団体・自治体等の名称：株式会社内田洋行／内田洋行健康保険組合

取組・活動名：健康関連データの経年分析に基づく、生活習慣病予防の新戦略策定と医療費の適正化達成

取組アクション： ○ 適度な運動 ○ 適切な食生活 ○ 禁煙・受動喫煙防止 ○ 健診・検診の受診 ○ その他 生活習慣データ測定、予防歯科

プロジェクトウェブサイトURL

【実施内容の概要(背景や目的、方法、成果、意義を完結にまとめてください。)]

2013年度から国に先駆けてデータヘルス計画に向けた解析を㈱ミナケアに委託し、医師のサポートを受けながら3ヶ年分のレセプトおよび健診データの経年分析を実施した結果、保健事業の新しい戦略が見えました。

新しい戦略とは、生活習慣病のハイリスク者への対応策として、保健師が行うハイリスクアプローチ(受診勧奨などの保健指導)既存リスク者を減らす)を継続し、加えて新たに事務職などが行う有効なポピュレーションアプローチ(予備軍などのリスク集団に対する情報発信など)新規リスク者を減らす)を実施することです。これにより、既存のハイリスク者向けの対応だけではなく、新規でハイリスクになる可能性のある者にも対応することになります。

何故なら、当健保の2013年度～2014年度の経年分析結果では、ハイリスク者は72名減少(透析3名減/60%減、血糖27名減/44%減、血圧21名減/95%減、脂質21名減/100%減)しましたが、同一年内に新規リスク者が57名増加した訳です(イタチごっこ)。その結果、生活習慣病の高緊急度リスク者は常に加入者全体の1.5%(100名)前後であり、今後も減らすのが難しい構造になっていることが明確になったからです。

そこで、2015年度は新たな保健事業を企画実施しました。健康づくりの基本である「運動促進」「食事コントロール」「睡眠+生活習慣データ測定」に加えて、「ICT面談(特定保健指導)」「脳梗塞・心筋梗塞の発症リスクの測定」「若年者向けNoomアプリ(カラダ改善プログラム)」「歯科医師による予防歯科(プッシュ型保健事業管理ツールUCHIDA元気LABOを使用)」「禁煙支援」を実施しました。(内容は当健保のHPの「新たな健康増進プログラム」をご覧ください)

この新たな戦略が功を奏し、リスク者減少効果として人工透析リスク者が67%減少、血糖ハイリスク者が50%減少しました。医療費の適正化は、継続在籍者の生活習慣病の入院医療費が14%減少、入院一人当たり医療費が20%減少、2年間継続在籍者で腎不全の医療費が27%減少しました。又、被扶養者の健診受診率は79%を達成しました。

当健保が行う保健事業の新戦略に基づき、既存のハイリスクアプローチに加えて新たなポピュレーションアプローチを、保健師と事務職が一緒になってチーム(Team109)でチャレンジした結果、生活習慣病リスク者の減少と医療費の適正化に寄与したことは健康寿命を延ばすことに貢献したと言えます。

取組・事業の概要がわかる写真や図：

